

主任と主任以外の保育士による 「保育の内容」に関する自己評価の比較

A Comparison between Chief and the other teachers on Self-Evaluation for Nursery Teaching

清水 益治・千葉 武夫

Masuharu Shimizu

Takeo Chiba

要 約

分析対象を常勤に限定し、主任（N=156）と主任以外（N=721）の保育士による「保育の内容」の自己評価を比較した。その結果、次の3つの結果が得られた。①主任は主任以外の保育士よりも、全体として承認率が高い。②主任と主任以外の保育士の自己評価の差は、領域によって異なり、特に環境と表現の領域は、その差が顕著である。③区分ごとに各項目の承認率を比較すると、各区分で顕著な差がある項目や比較的大きな差がある項目が見られた。これらの結果を基に、園内研修を実施する方法の詳細が提案された。

キーワード

主任保育士、保育の内容、自己評価、園内研修

はじめに

本研究の目的は、分析対象を常勤に限定し、主任と主任以外の保育士による「保育の内容」の自己評価を比較し、園内研修において、主任が主任以外を指導する際に役立つ資料を提供することである。

我々は、これまでに主任保育士の自己評価が主任以外の保育士のそれと異なることを繰り返し示してきた（川喜田ら、2006；清水ら、2006；清水・千葉、2006；清水・千葉、2010）。例えば、清水ら（2006）は、現職の保育士508名に、自らの保育を自己点検・自己評価するために作成されたチェックリストに記入してもらい、保育士の属性による自己評価結果の違いを分析した。その結果、勤務する保育所の設置主体、保育士の性、主任かどうか、クラス担任かどうか、勤務形態、勤務経験年数、1年間の研修回数による違いが明らかになった。そして、これらの結果を利用した保育士の研修システムについて提案し、その中での保育士養成校の役割を論じた。ここで提案されたシステムと養成校教員の役割は、当該チェックリストに各保育所内の保育士に記入してもらい、養成校教員が数的な処理を行って違いを示し、その違いを元に各保育所内で自己評価の基準や、望ましい取り組みについて養成校教員をファシリテーターとして話し合うというものであった。

清水・千葉（2006）は、上記のチェックリストを用いて、初任者（勤務年数5年以下）129名

と、非主任（勤務年数5年以上で主任以外の者）274名、および主任（勤務年数5年以上に限定）90名を比較した。その結果、①領域ごとの分析では、主任がすべての領域で望ましい状態であるとは必ずしも言えないことが明らかになった。②項目ごとの分析では、主任を対象とした研修などで注意を促す必要がある項目が特定された。これらの結果を主任としての役割が活きるシステム作り（＝主任の業務を補い、支え合うシステム）と、養成教育や現任教育、さらに「協働」の取り組みを行う研究者の養成に関係づけて議論した。

これらの研究で用いられたチェックリストは、旧保育所保育指針（通知）に基づき、保育士に必要な内容をリストアップしたものであったが、清水・千葉（2010）では、現行の保育所保育指針（告示）に対応させて作成されたものを用い、保育内容（環境）に焦点をあてて、主任（159名）と主任以外（1047名）の自己評価を比較した。その結果、①主任の方が主任以外よりも承認率が高い、②主任と主任以外では抽出される因子が異なっている、という2つのことが明らかになった。これらの結果から、我々は、主任が①園の保育と保育指針の関係を考える園内研修を開くこと、②主任がモデルとなり、保育に対する考え方や自己評価の基準を伝えていくこと、③主任を対象とした講座や研修で、このような結果を伝え、園内での取り組みをうながすことを提案した。

ところで、主任は、主任以外の保育士に対して、どの程度、どのようにかかわっているのだろうか。この疑問に対して答える資料が、最近報告された。日本保育協会（2011）は、全国の10分の1の保育所の主任保育士のみを対象とした実態調査を実施した。回答者は、987名の主任保育士（市町村などの公営の保育所の主任406名と社会福祉法人などの民営の保育所の主任581名）と、主任に準じると思われる副施設長や保育士等135名の計1122名であった。保育士の職務として、(1)保育所の円滑な運営、(2)施設長のサポート役、(3)保育所の活性化、(4)職員のスーパーバイザー、(5)園児の全体的把握、(6)課題のある子どもへの対応、(7)家庭の全体的把握、(8)課題のある家庭への対応、(9)職員（保育士）の資質向上、(10)相談対応（保護者）、(11)相談対応（保育士や他の職員）、(12)地域子育て支援への対応、(13)地域の関係機関との連携、(14)その他の14種類の選択肢を設定し、「現在行っていること」と「今後特に力を入れていきたいこと」を複数選択を認めて選んでもらった。その結果、「現在行っていること」で最も選ばれた上位5つの職務は、①園児の全体的把握（被選択率89.1%。以下、同じ）、②施設長のサポート役（81.6%）、③相談対応（保育士や他の職員）（77.5%）、④課題のある子どもへの対応（76.6%）、⑤相談対応（保護者）（71.7%）であった。これに対して、「今後特に力を入れていきたいこと」で最も選ばれた上位5つの職務は、①職員（保育士）の資質向上（68.7%）、②職員のスーパーバイザー（49.9%）、③保育所の活性化（48.8%）、④課題のある子どもへの対応（47.0%）、⑤課題のある家庭への対応（43.1%）であった。この結果は次のように解釈できるであろう。すなわち、主任保育士は、職員（保育士）の資質向上や保育所の活性化に力を入れたいが、園児の全体的把握や施設長のサポート役、相談対応等に追われて、優先順位が低くなっていると解釈できるであろう。

では、主任保育士が、職員の資質向上や保育所の活性化に力を入れるにはどうしたらよいか。本研究では、自己評価チェックリストを用いた、そのような取り組みに役立つ資料を提供する。具体的には、保育指針の第3章保育の内容に焦点を当て、主任と主任以外の保育士の自己評価の違いを示し、それに基づく職員の資質向上や保育所の活性化の方法を提案する。

本研究で、保育指針の第3章保育の内容に焦点を当てた理由は、以下の2つである。その1つは、現行の指針が告示化され、それに伴い、第3章保育の内容にあたる部分が、大幅に大綱化されたからである。大綱化は、内容を精選することで量を減らすことが目的であった。そして旧指

針では3章から10章まで、発達過程区分ごとに記されていた「ねらい」「内容」「配慮事項」が、発達過程区分を廃し、第3章として一括に記載されることになった。そのためこの新指針の第3章は、自己評価の基準を園内で共有する必要があると考えられる。

もう1つの理由は、保育の内容の記述が主任と主任以外の保育士の共通の職務に該当するからである。先述の日本保育協会（2011）が選択肢として示した14種類（最後は「14その他」であったので、実際には13種類）の職務の中には、クラスを担当する保育士にとっては、ほとんど縁がない職務も含まれていた。例えば、(2)施設長のサポート役はクラス担任の職務ではない。また、(12)地域子育て支援への対応も、その行う保育に支障がない限りにおいて、行うよう努めることが求められているものであり、クラス担任がこの職務を行うことは保育に支障を来すことが危惧される。このように考えるならば、主任と主任以外で共通する職務は、直接子どもと関わること、すなわち保育の内容であると推察される。

清水ら（2006）や清水・千葉（2006）は、保育の内容を含めて、すべてのチェックリストの項目を比較しているが、新指針には対応していない。清水・千葉（2010）は、保育内容の「環境」の領域に焦点を当てて、主任と主任以外の保育士を比較しているが、本研究では、5つの領域の全てに加えて、養護に関する内容、ねらいや内容の全般に関する内容、保育の環境、乳児保育、長時間保育、障害のある子どもの保育、子どもの人権に関する内容についても調べた。

本研究と清水・千葉（2010）のもう一つの違いは、本研究では、主任以外の保育士の属性に関して就業形態を制限したことである。具体的には、主任以外を常勤と非常勤（フルタイム）だけを分析対象とした。省いたのは非常勤（パートタイム）である。主任は、常勤に限られるが、主任以外には、常勤に加えて、非常勤（フルタイム）や非常勤（短時間）の勤務形態の者もいる。非常勤は、職務や勤務時間が限られているため、全ての保育の内容に関わっているとは限らない。また我々の研究チームでは、常勤と非常勤（フルタイム）の保育士とでは、自己評価に差があることも見いだしている（吉岡ら、2011；水上ら、2011）。そこで本研究では、この就業形態を常勤に限定して分析した。

方 法

1. 調査対象 全国域で58カ所の保育所に協力を頂いた。その内訳は公立保育所が40カ所、私立保育所が18カ所である。各保育所におおむね30票の調査票を送付した。配布総数は1780票であった。回収された調査票は1713票。このうち記入されたものは1331票であった。残り382票は無記入であったが、これらは一括で送付された調査票のうち、小規模園等の事由で職員数が30名に満たないために返却された票である。回収率（ $[1780-382] \div 1331 \times 100$ ）は95.2%であった。

2. 材料 A票とB票の2種類からなる調査票を作成した。A票はフェイスシートに当たるもので、①勤務する園の所在地、②勤務する園の設置主体、③所持している免許・資格、④主任かどうか、⑤クラス担任かどうか、⑥就業形態、⑦通算保育所勤務年数、⑧性別、⑨過去1年間に受けた外部研修の回数を尋ねる9項目で構成した。本研究の主な関心である④については、「あなたは主任ですか。」と問いかけ、「1. 主任 2. 主任以外 3. 園長」の選択肢を用意した。また⑥については、「あなたの就業形態をお聞かせください」と問いかけ、「1. 常勤 2. 非常勤（フルタイム） 3. 非常勤（短時間）」の選択肢を用意した。

B票は自己評価チェックリストの本体であった。扉には、「保育士のための自己評価チェックリスト」記入上の注意として、①保育園の体制がどうかという視点ではなく、回答者自身が、日

頃、どのように保育しているかについて聞いていること、②質問への回答は、すべて「はい」と「いいえ」の2つからどちらかを選ぶものであり、「はい」か「いいえ」のどちらを選ぶか迷った場合も、必ず一つを選ぶこと、③乳児保育などの事業の場合は、現在「担当している」か、または「過去に担当したことがある」者のみが答えることを強調した。

チェックリストは300の項目で構成されていた。本研究の主な関心である保育の内容については、表1から表10の第2欄に示す項目で構成した。これらの項目は、新保育所保育指針（平成20年3月告示、同21年4月施行）にて示された「第3章 保育の内容」に対応づけて改訂されたものであった。

なおこれらの調査票の他に、依頼状が作成された。この文書には「「保育士のための自己評価チェックリスト」作成に関する調査のお願い」として、①編纂委員会代表の挨拶や調査の趣旨、②編纂委員会のメンバーの氏名や所属・職位などと共に、調査方法として、③調査対象が当該園の全保育士（30名以内）であることおよび当該園で保育士が30名以内の場合の配布の仕方（乳児・幼児の担当、保育士・主任・園長、常勤・非常勤、年齢、経験年数などさまざまな条件の方々が含まれるようにすること）、④回収、返送の仕方（調査票は配布枚数把握のため、小規模園等で未使用のものもすべて返却してほしいこと）、⑤調査結果は統計的に処理し、個別名をあげての集計や報告はしないこと、調査にご協力いただいた方に迷惑をかけないことなどが書かれていた。

3. 手続き 調査は平成20年7月から8月にかけて実施された。公立保育所には当該保育所を設置する自治体の保育課などを、私立保育所には編纂委員会のメンバーを通じて、調査依頼がなされた。調査票等の発送は平成20年7月25日に某出版社が行った。回収は、期日を同年8月18日とし、各保育所が、回収した調査票を、当該保育所が小規模等のため未使用のものを含めて（「配布枚数把握のため」として依頼状に明記して依頼）、一括してその出版社に返送した。

なお、統計的分析にはSTATISTICA 10 を用いた。

結 果

1. 分析対象 回収された有効調査票1331票の内訳を公私立保育所別に見ると、公立保育所の保育士が765票、私立保育所の保育士が547票、無回答が19票であった。本研究の主たる関心である主任かどうかの別に見ると、主任が159票、主任以外が1047票、園長が65票、無回答が60票であった。クラス担任かどうかの別に見ると、クラス担任が971票、担任以外が328票、無回答が32票であった。就業形態別に見ると、常勤が970票、非常勤（フルタイム）が197票、非常勤（短時間）が148票、無回答が16票であった。これらの値を見ると、本調査は、全国調査としてほぼ妥当な分布であると考えられる。

本研究の主たる比較対象は、主任と主任以外の保育士である。主任は必ず常勤であるが、主任以外の保育士には、常勤以外に、非常勤（フルタイム）と非常勤（短時間）が含まれている。そこで本研究では、就業形態を常勤のみに限定し、主任と主任以外を比較することにした。分析対象は、主任は156名、主任以外は721名であった。

2. 承認率 チェックリストは、保育所保育指針の「第3章 保育の内容」に関する項目を以下の12に区分していた。すなわち、ねらい・内容、養護、教育（健康）、教育（人間関係）、教育（環境）、教育（言葉）、教育（表現）、保育の環境、乳児保育、長時間保育、障害のある子どもの保育、子どもの人権の12に区分していた。表1から表12は、この区分ごとに、主任と主任以外による「第3章 保育の内容」に含まれる各項目に対する「はい」の割合（以下、承認率）、主任

の承認率から主任以外の承認屋と引いた差、およびその差の検定結果を示したものである。差の大きい順に項目を並び替えている。

(1) 区分ごとの比較

表1は、「1. ねらい・内容」に関する6項目の承認率を示したものである。すべての項目で差の値は正であり、主任の方が主任以外よりも承認率が高かった。検定結果を見ると、6項目中2項目では有意差があった。

表1. 「1. ねらい・内容」に関する項目の承認率 (%)

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
31	「養護」が基礎となって5領域における活動や体験が展開していくことを理解していますか	99.4	91.1	8.3	**
30	「教育」とは、心情、意欲、態度など子どもが身に付けるための援助であることを把握していますか	99.4	92.5	6.9	**
27	保育所保育は、「養護と教育」が一体となって展開されることに留意していますか	98.7	96.2	2.5	
29	「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための援助であることを理解していますか	98.7	96.8	1.9	
28	「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助方法であることを理解していますか	100.0	98.2	1.8	
26	保育の内容は、目標を具体化した「ねらい」とさらに具体化した「内容」とから構成されることを理解していますか	97.4	96.5	0.9	

** p<.01

表2は、「(1) 養護 (生命の保持・情緒の安定)」に関する17項目の承認率を示したものである。いずれの項目でも差の値は正であり、主任の方が承認率が高かった。差の値に注目すると、4項目では差が10ポイント以上と、比較的大きな差がみられた。検定結果を見ると、17項目中8項目では有意差があり、1項目ではその傾向が見られた。

表2. 「(1) 養護 (生命の保持・情緒の安定)」に関する項目の承認率 (%)

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
44	「待ってて」「あとで」などと言わずに、なるべくその場で対応するようにしていますか	79.5	62.4	17.1	**
42	「早くしましょう」など、せかす言葉を不必要に使わないで、状況や一人一人にあわせた対応を心がけていますか	83.3	66.3	17.0	**
43	「だめ」「いけません」など制止する言葉を不必要に用いないようにしていますか	85.3	73.9	11.3	**
40	子ども一人一人に分かりやすい温かな言葉で、おだやかに話しかけていますか	95.5	85.4	10.1	**
36	子どもが自分の場を確保できるような配慮をしていますか	91.7	84.4	7.3	*
38	いつも子どもが何を求めているか、思いをめぐらせていますか	97.4	91.9	5.5	*
35	子どもが触れたりするものや場所など、衛生的な環境を保てるように常に気をつけていますか	99.4	94.2	5.2	**
32	指導計画や記録には、いつも養護面の配慮が記載されていますか	94.2	89.8	4.3	+
33	一人一人の子どもの生理的欲求が十分に満たされるよう配慮していますか	95.5	91.8	3.7	
46	「いや」などと、駄々をこねる子どもの気持ちをくみとろうとしていますか	100.0	96.8	3.2	*
39	常に子どもとの温かなやり取りやスキンシップを心がけていますか	99.4	97.8	1.6	

45	「できない」「やって」などと言ってくるとき、その都度気持ちを受け止めて対応していますか	97.4	96.0	1.5	
47	登園時、泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにしていますか	99.4	98.1	1.3	
37	いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを確保していますか。	84.0	82.7	1.3	
41	子どもが不安になった時にいつでも支えられるよう、一人一人を視野に入れていきますか	94.8	93.6	1.2	
34	登園時の子どもの健康観察を行っていますか	99.4	98.6	0.7	
48	登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしていますか	100.0	99.4	0.6	

+ p<.10 * p<.05 ** p<.01

表3は、「(2) 教育」における「1) 健康」に関する13項目の承認率を示したものである。1項目を除いて、差の値は正であり、これらの項目では主任の方が承認率が高かった。差の値に注目すると、1項目では差が10ポイント以上と、比較的大きな差がみられた。検定結果を見ると、13項目中4項目で有意差があり、1項目ではその傾向が見られた。

表3は、「(2) 教育」における「1) 健康」に関する項目の承認率(%)

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
61	歯磨き指導など、病気の予防に必要な活動を適宜取り入れていますか	95.5	78.7	16.8	**
55	自分の身体を大切にすることが育つよう、視聴覚教材などを用いて話をする機会をもっていますか	66.5	58.5	7.9	+
58	食事・おやつ準備や片づけに参加したり、自分たちでできるよう配慮していますか	96.8	89.5	7.2	**
60	危険に気づいて行動できるよう、安全についての心構えを日頃から話していますか	95.5	90.1	5.4	*
49	十分に身体を動かせるよう、時間と場所を確保するなどの配慮をしていますか	98.1	94.1	4.0	*
54	戸外の活動のあと、子どもがていねいに手を洗っているか、そのつど確認していますか	79.4	76.8	2.5	
51	友だちと一緒に体を動かすことを楽しめるように働きかけていますか	99.4	97.8	1.6	
59	衣類の着脱を自分でやろうとしている子どもの気持ちを大切にしていますか	100.0	99.0	1.0	
50	戸外で遊ぶ機会を多く取り入れていますか	96.2	95.3	0.9	
53	健康な生活のリズムを身につけるよう、子どもの一日の生活の流れを考えながら保育していますか	99.4	98.6	0.7	
56	食事の前や排泄の後の手洗いを励行するなど、清潔の習慣が身につくよう指導していますか	100.0	99.3	0.7	
57	食事、排泄など、生活に必要な活動の仕方を身につけるよう、働きかけていますか	100.0	99.6	0.4	
52	保育士が率先して身体を動かすなど、子どもがその楽しさを体験できるよう配慮していますか	94.2	95.7	-1.4	

+ p<.10 * p<.05 ** p<.01

表4は、「(2) 教育」における「2) 人間関係」に関する17項目の承認率を示したのものである。いずれの項目でも差の値は正であり、主任の方が承認率が高かった。差の値に注目すると、2項目では10ポイント以上と、比較的大きな差がみられた。検定結果を見ると、17項目中7項目では有意差があり、1項目ではその傾向が見られた。

表4は、「(2) 教育」における「(2) 人間関係」に関する項目の承認率(%)

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
77	家族などから、自分がたくさんの愛情を受けて育ってきたことを知る機会をつくっていますか	84.0	71.0	13.0	**
76	高齢者や地域の人とかかわり、親しみや感謝の気持ちを味わうことができる機会を作っていますか	81.4	68.6	12.8	**
72	あそびのルール(きまり)を子どもたちが自らつくっていく過程を大切にしていますか	91.6	82.2	9.4	**
78	外国の人など、自分とは異なる文化をもった人にふれる機会をつくっていますか	37.4	29.0	8.4	*
75	当番活動などでは、「やってみたい」という気持ちを大切にしていますか	98.7	90.9	7.8	**
68	友だちと一緒に一つのことをやり遂げるにより、達成感が味わえるような機会をつくっていますか	94.8	89.1	5.7	*
74	当番活動や保育士の手伝いをするなど、人の役に立つ喜びを味わえるようにしていますか	100.0	95.0	5.0	**
67	友だちと積極的にかかわることで、友だちのよさに気づくよう援助していますか	96.2	92.9	3.3	
71	園生活の中で、順番を守るなどきまりの大切さを理解できるように、ていねいに説明していますか	98.7	96.4	2.3	
69	良いことや悪いことに気づき、考えて行動することができるよう支えていますか	99.4	97.4	2.0	
70	友だちが困っているときに、その子のことを心配するなど、思いやりを持てるよう援助していますか	100.0	98.2	1.8	+
64	友だちと一緒に喜んだり悲しんだりすることができる機会をつくっていますか	96.8	95.1	1.7	
65	つまづきや葛藤、けんかなどが、子どもの育ち(発達)に欠かせないものとして捉え、対処していますか	99.4	97.9	1.5	
66	子ども同士が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることにも気づけるように援助していますか	98.7	97.9	0.8	
62	子どもが、保育士や友だちと共に過ごすことの喜びを感じることが出来るような配慮をしていますか	98.7	98.2	0.5	
63	園生活の中で、自分でできたという充実感を味わえるような体験をとりいれていますか	97.4	97.1	0.4	
73	共同の遊具や用具を大切に使うことを、活動を通して体験できるよう配慮していますか	95.5	95.3	0.2	

+ p<.10 * p<.05 ** p<.01

表5は、「(2) 教育」における「(3) 環境」に関する16項目の承認率を示したものである。いずれの項目でも差の値は正であり、主任の方が承認率が高かった。差の値に注目すると、3項目では差が20ポイント以上と顕著な差がみられ、さらに7項目では差が10ポイント以上と、比較的大きな差がみられた。検定結果を見ると、16項目中12項目では有意差があり、3項目ではその傾向が見られた。

表5は、「(2) 教育」における「(3) 環境」に関する項目の承認率(%)

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
93	あなたは、社会の出来事について、子どもに分かりやすく説明できますか	86.5	60.6	25.9	**
90	身の回りにある簡単な標識や文字に関心を持ち、その意味や役割がわかるよう配慮していますか	91.0	68.4	22.6	**
89	集めてきた木の実を数えたり、数量や図形などに関心を持つよう工夫していますか	94.2	74.2	20.0	**
94	さまざまな国の旗を作って飾ることによって、いろいろな国に興味・関心がもてるようにしていますか	37.4	18.6	18.8	**
92	園外保育などで地域で働いている人たちに会える機会をつくっていますか	73.5	55.5	18.1	**

91	地域の公共機関を利用するなど、近隣の生活に興味を持てるように配慮していますか	72.9	56.1	16.8	**
84	身近な自然事象に触れ「どうして」や「なぜ」といった疑問に対して、一緒に調べたり考えたりしていますか	94.9	80.1	14.8	**
83	身近な動植物を飼育・栽培するなど、それらに興味・関心をもつことのできるよう配慮していますか	96.2	83.8	12.4	**
85	子どもが身近な動植物に自分からさわろうとする時に、何に一番気をつけなければいけないか、いつも考えていますか	91.0	79.4	11.6	**
87	園庭や散歩で集めてきた葉や木の実など、季節感のある素材を保育のなかで活用していますか	93.6	82.3	11.3	**
86	子どもが身近な動植物の世話をするなかで、生命の尊さに気づくよう話かけていますか	96.8	87.1	9.7	**
81	水や砂や土などを使って、その性質や仕組みにあった遊びを展開できるように工夫していますか	94.2	89.7	4.5	+
88	自分のもの、他人のもの、共同のものの区別に気づけるような機会を提供していますか	96.8	92.7	4.1	+
80	心の安らぎや、豊かな感情を体験できるように、子どもと自然との触れあいを大切にしていますか	98.1	94.8	3.3	+
79	身近な自然をとうして、その美しさ、不思議さなどに気づくことができるようにしていますか	97.4	94.4	3.0	
82	その日の天候・気象に合わせた保育をしていますか	100.0	97.5	2.5	*

+ p<.10 * p<.05 ** p<.01

表6は、「(2) 教育」における「4) 言葉」に関する19項目の承認率を示したものである。1項目を除いて、差の値は正であり、これらの項目では主任の方が承認率が高かった。差の値に注目すると、1項目では20ポイント以上と顕著な差、1項目では10ポイント以上と、比較的大きな差がみられた。検定結果をみると、19項目中6項目では有意差があり、1項目ではその傾向が見られた。

表6は、「(2) 教育」における「4) 言葉」に関する項目の承認率(%)

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
111	簡単な文字や記号を使って遊ぶ楽しさを伝えていますか	82.7	61.4	21.3	**
99	あなたは、正しい、美しい言葉で子どもに話していますか	72.3	58.7	13.5	**
103	話し合いのときには、どの子どもも自分の意見を言うことのできる機会を提供していますか	96.8	87.7	9.1	**
106	子どもが人前で話すときは、相手にわかりやすく話せるように援助していますか	98.1	89.3	8.8	**
104	人の話をじっくりと聞き、その内容を理解することの大切さに子どもが気づくように働きかけていますか	98.7	92.1	6.6	**
95	子どもの言葉の発達の過程に配慮して、専門的な目で詳細に観察していますか	79.5	73.5	6.0	
112	人と気持ちが通じ合う喜びを味わえるよう配慮していますか	96.8	91.4	5.4	*
105	人の話を聞くことの楽しさを体験するよう心がけていますか	94.8	91.2	3.7	
101	あなたは子どもが、わからないことを尋ねることができ、安心して話せる雰囲気をつくっていますか	96.8	93.4	3.4	
107	絵本や紙芝居の読み聞かせをする時、言葉の楽しさや美しさに気づけるよう心がけていますか	97.4	95.0	2.5	
108	子どもが絵本や物語の内容と自分の経験とを結びつけたり、想像をめぐらせるよう、読み方を工夫をしていますか	98.1	95.7	2.4	
96	あなたは子どもの発達や理解力、生活経験に合わせた言葉で保育していますか	96.1	94.0	2.1	

98	子どもの表情や姿をよく観察し、その場に適した言葉がけを心がけていますか	99.4	97.4	2.0	
102	子どもが見たこと、聞いたこと、感じたことなどを、その子なりの言葉で表現する機会を大切にしていますか。	100.0	98.2	1.8	+
109	子どもの興味・関心にあわせた絵本や物語の選定をしていますか	98.7	96.9	1.8	
110	紙芝居や絵本の読み聞かせのときには、あなた自身もその内容を楽しんでいますか	99.4	98.6	0.8	
100	子どもがしたいこと、してほしいことを話しているとき、最後までゆったりと聞くよう努めていますか	95.5	94.8	0.7	
113	「ごめん」、「ありがとう」など、生活に必要な言葉をいつも使えるように指導していますか	100.0	99.4	0.6	
97	あなたは、日々心のこもったあいさつを子どもとかわしていますか	98.7	99.2	-0.4	

+ p<.10 * p<.05 ** p<.01

表7は、「(2) 教育」における「5) 表現」に関する13項目の承認率を示したものである。いずれの項目でも差の値は正であり、主任の方が承認率が高かった。差の値に注目すると、5項目では差が10ポイント以上と、比較的大きな差がみられた。検定結果を見ると、13項目中11項目では有意差があり、2項目ではその傾向が見られた。

表7は、「(2) 教育」における「5) 表現」に関する項目の承認率(%)

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
122	子どもが自由に描いたり創ったりできるように、材料や用具を子どもが自由に取り出せる場所に置くなど工夫していますか	81.2	61.4	19.8	**
116	美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにできるような機会をつくっていますか	91.0	77.7	13.3	**
123	自分のイメージを言葉などで表現したり演じたりして、遊ぶ楽しさを味わえるようにしていますか	95.5	82.8	12.7	**
120	生活の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わえるような機会をつくっていますか	94.8	82.9	11.9	**
117	子どもが、様々な楽器を使う機会を提供し、音楽に親しみをもち楽しめるように工夫していますか	84.5	72.9	11.6	**
121	子どもが感じたことや考えたことを、自由に描いたり、つくったりできる機会をもうけていますか	95.5	85.9	9.6	**
125	人前で表現する機会や場面をできるだけ多くしていますか	79.7	70.9	8.9	*
118	ハサミや大工道具など、道具の正しい使い方を、一人一人に丁寧に教えたり、見守ったりしていますか	89.6	80.8	8.8	**
124	みんなで一緒に表現することのよろこびを、味わえるような機会をつくっていますか	95.5	88.8	6.6	*
119	子どもがつくったり表現したものを、お互いに見せあったりするような機会をつくっていますか	97.4	91.0	6.4	**
115	様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りに気付き、心地よさを感じる機会をつくっていますか	94.2	88.4	5.8	*
126	子どもがいろいろな素材に触れ、親しみ、イメージを豊かに持てるよう配慮していますか	92.1	86.7	5.4	+
114	歌ったり、踊ったりして、音や動きの楽しさに気づき、楽しめるよう援助していますか	100.0	98.0	2.0	+

+ p<.10 * p<.05 ** p<.01

表 8 は、「2. 保育の環境」に関する 9 項目の承認率を示したものである。いずれの項目でも差の値は正であり、主任の方が承認率が高かった。差の値に注目すると、1 項目では差が10ポイント以上と、比較的大きな差がみられた。検定結果を見ると、9 項目中 2 項目では有意差があった。

表 8 は、「2. 保育の環境」に関する項目の承認率（％）

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
133	子どもの興味に合わせて、好きな遊びができるコーナーを設けるよう工夫していますか	95.5	83.4	12.1	**
131	子どもの戸外での活動にあわせて、遊具の配置や飼育・栽培など自然環境の整備に心がけていますか	91.7	82.2	9.5	**
127	季節にあわせて、保育室のインテリアなど環境に工夫をしていますか	87.8	82.5	5.4	
130	子どもの、発達に即した玩具・遊具・用具を用意していますか	92.9	89.5	3.5	
132	クレヨン・粘土・紙や用具などを、子どもの動線にそって配置するなど、工夫していますか	76.6	73.2	3.4	
129	保育中の、あなた自身の声の大きさは、いつも子どもにとって適切な大きさですか	64.3	62.0	2.3	
128	保育中に音楽を流すときには、選曲や音の大きさに配慮していますか	98.1	97.1	1.0	
134	日々の保育のなかに、子どもが自由に遊べる時間帯を設けていますか	100.0	99.3	0.7	
135	子どもの作品を工夫して飾ったり、ていねいに保存したりするなど、大切に扱っていますか	97.4	96.8	0.6	

** p<.01

表 9 は、「3. 乳児保育」に関する23項目の承認率を示したものである。16項目では差の値が正で、主任の方が承認率が高かったが、残り 7 項目ではその値が負であり、逆に主任以外の方が承認率が高かった。主任の方が承認率が高かった項目の内、3 項目では有意差があり、2 項目ではその傾向が見られた。主任以外の方が承認率が高かった項目のうち 1 項目では、その傾向が見られた。

表 9 は、「3. 乳児保育」に関する項目の承認率（％）

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
143	一人一人のおむつを交換する度に、手洗いを徹底していますか	90.1	83.3	6.7	*
148	しぐさや声や動きを介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答していますか	99.3	93.5	5.8	**
141	初めての食品を食べさせた時には、皮膚や便性などに異常がないか、観察していますか	99.3	94.9	4.4	*
153	一人一人の子どもの出生時の状況、その後の発育・発達などを細かに把握していますか	90.8	86.9	4.0	
152	特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮していますか	93.7	90.5	3.1	
137	授乳は、子どもの欲しがるときを尊重して行っていますか	89.9	87.4	2.6	
149	たて抱き、腹這いなど、子どもが様々な姿勢をとれるよう努めていますか	100.0	97.7	2.3	+
157	眠い時に眠ることができる場所を用意していますか	97.2	94.9	2.3	
139	離乳食については、家庭と連携をとりながら、すすめていますか。	100.0	98.0	2.0	+
154	子ども一人一人の育ちについて、職員間で連携を取り職員全体で見守る体制ができていますか	96.5	94.9	1.6	

151	季節や天候に応じて戸外遊びを行うなどの機会を設けていますか	100.0	98.5	1.5	
138	抱いて目をあわせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと授乳していますか	97.9	96.5	1.4	
155	一人一人の子どもにいつでもやさしく対応するように努めていますか	100.0	98.9	1.1	
146	睡眠時に乳児の様子を把握する方法は、どの職員もすぐに理解できる適切な方法で行われていますか	92.2	91.4	0.8	
140	一人一人の育ちやその日の体調に合うよう離乳食を工夫していますか	95.0	94.5	0.5	
156	一人一人の子どもの服装、頭髮、爪などの清潔に心がけていますか	98.6	98.3	0.3	
142	おむつ交換は、やさしく声をかけながら行っていますか	98.6	98.7	-0.1	
147	喃語には、ゆったりとやさしく応えていますか。	99.3	99.4	-0.1	
150	身体を適度に動かす遊びや、リズムを伴った触れ合い遊びを十分にしていますか	97.2	97.4	-0.2	
136	室内の温度や湿度、換気をチェックしていますか	97.2	97.4	-0.2	
158	気温や天候、乳児の体調に配慮しながら外気欲を心がけていますか	98.6	98.9	-0.3	
145	寝返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせていますか	97.1	97.7	-0.5	
144	一人一人の生活リズムに合わせて睡眠がとれるように、静かな空間を確保していますか	88.7	93.5	-4.8	+

+ p<.10 * p<.05 ** p<.01

表10は、「4. 長時間保育」に関する7項目の承認率を示したものである。5項目では差の値が正で、主任の方が承認率が高かったが、残り2項目ではその値が負であり、逆に主任以外の方が承認率が高かった。主任の方が承認率が高かった項目の内、1項目ではその有意な傾向が見られた。

表10は、「4. 長時間保育」に関する項目の承認率（％）

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
159	長時間保育のために、家庭的な雰囲気を作ることに配慮していますか	90.4	84.3	6.1	+
162	長時間保育では、クラスや年齢の違う子どもとも楽しく遊べるように配慮していますか。	98.6	97.8	0.8	
163	子どものその日の様子を、確実な方法により職員間で伝達していますか	93.6	92.9	0.7	
164	次々にお迎えが来る中で、「ママ来ないね」などの呟きなどを受け止め、気持ちをくんで対応していますか	100.0	99.5	0.5	
165	その日の子どもの様子が保護者に確実に伝わるように、連絡帳などの内容をいつも検討していますか	80.1	80.0	0.2	
161	長時間保育では、一人一人の子どもの要求に応じて、ゆったりと接していますか	89.4	89.6	-0.3	
160	長時間保育のために、好きなことをしてくつろげる空間や玩具などを整備していますか	90.7	91.7	-1.0	

+ p<.10

表11は、「5. 障害のある子どもの保育」に関する11項目の承認率を示したものである。いずれの項目でも差の値は正であり、主任の方が承認率が高かった。差の値に注目すると、1項目では差が20ポイント以上と顕著な差がみられ、さらに4項目では差が10ポイント以上と、比較的大きな差がみられた。検定結果を見ると、11項目中7項目では有意差があった。

表11は、「5. 障害のある子どもの保育」に関する項目の承認率（％）

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
170	障害児保育、特別支援教育などに関する研修に自ら進んで参加していますか	93.1	68.1	24.9	**
174	園の保護者に、障害のある子どもに関する適切な情報を伝えるための取り組みを行っていますか	68.5	53.7	14.8	**
176	障害のある子どもの保護者が、就学など将来の方向を決めやすいように、相談に応じたり情報を提供していますか	91.5	80.5	11.0	**
171	あなたは、担当しているクラスの障害のある子どもがもつ障害について、十分な知識をもっていますか	66.9	56.2	10.7	*
172	療育・医療機関などの専門機関から、必要に応じて助言を受けていますか	90.7	80.4	10.3	**
166	園での生活の仕方について、障害のある子どもの特性に合わせた計画を立てて保育を行っていますか	93.0	85.6	7.4	*
175	障害のある子どもの保護者と話し合う場を日常的に設け、保護者への支援を心がけていますか	95.4	88.6	6.7	*
169	障害のある子どもの保育について、園全体で定期的に話し合う機会を持つよう配慮していますか	90.0	84.5	5.5	
168	障害のない子どもも障害のある子どもも、互いの良さを感じ取るように配慮していますか	97.7	95.8	1.9	
167	障害のない子どもの、障害のある子どものへのかかわりに対して、あなたは配慮していますか	99.2	97.6	1.7	
173	障害のある子どもの保護者の気持ちを受けとめ、信頼されるよう努めていますか	100.0	98.4	1.6	

* p<.05 ** p<.01

表12は、「6. 子どもの人権」に関する7項目の承認率を示したものである。いずれの項目でも差の値は正であり、主任の方が承認率が高かった。差の値に注目すると、3項目では差が10ポイント以上と、比較的大きな差がみられた。検定結果を見ると、7項目中4項目では有意差があり、1項目ではその傾向が見られた。

表12は、「6. 子どもの人権」に関する項目の承認率（％）

番号	項 目	主任	主任以外	差	検定結果
178	あなたは、子どもの権利擁護に関する研修に参加したことがありますか	57.8	37.9	19.8	**
177	子どもの人権への配慮や、互いを尊重する心を育てるために、具体的な取り組みを行っていますか	67.5	52.3	15.3	**
183	外国の人など異なる文化を持った人たちとも仲良くするよう働きかけていますか	78.3	63.2	15.1	**
179	「男（女）の子だから〇〇〇しない」などと、態度について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか	99.4	92.4	7.0	**
180	「それは女（男）の子の色」などと、服装や持ち物について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか	99.4	97.0	2.3	+
182	「それは女（男）の子の仕事」などと、職業について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか	100.0	98.4	1.6	
181	「それは女（男）の子の遊び」などと、遊び方について、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか	100.0	99.9	1.0	

+ p<.10 ** p<.01

（２）養護と教育（５領域）の比較

「保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とし、その内容については厚生労働大臣が、これを定める」とある（児童福祉施設最低基準第35条）。この法令に基づき厚生労働大臣が定めたものが保育所保育指針である。その第3章には、養護として、生命の保持と情緒の安定、教育として、健康、人間関係、環境、言葉、表現の５領域が定められている。そこで本項では、養護と教育（５つの領域）を比較してみた。

養護に関する項目は表2、教育に関する項目は、領域ごとに表3から表7に示した。表から明らかなように、養護と、教育の５つの領域はそれぞれ項目数が異なっている。そこで、各項目に対する「はい」の回答を１点とし、表の区分ごとに合計点を算出し、それを各項目数で割り、100を掛けて、全体としての「はい」の割合（以下、領域承認率）を算出した。この領域承認率の平均値を主任と主任以外で比較したものが図1である。

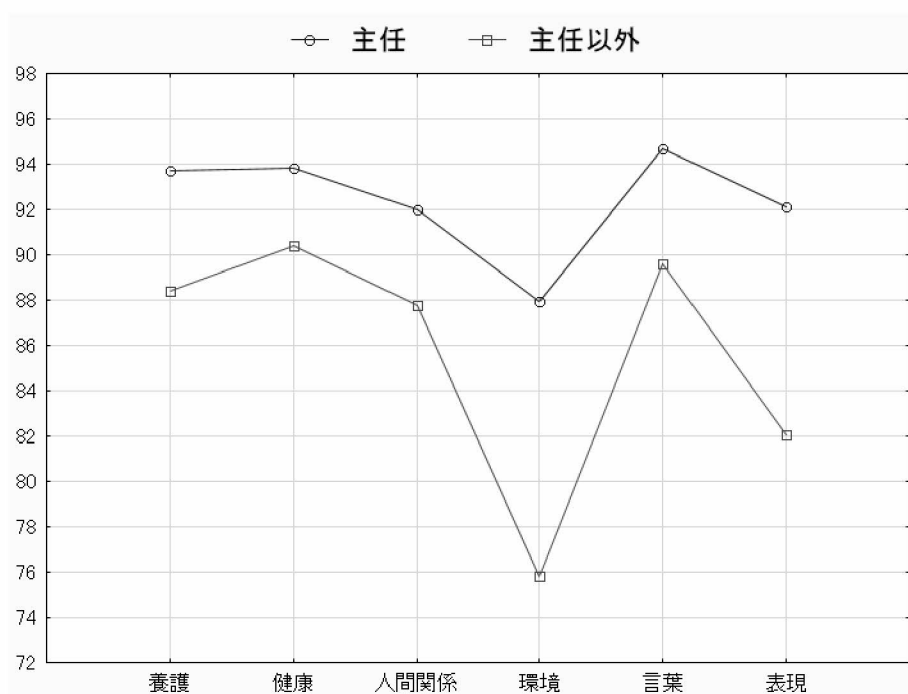


図1 領域承認率の平均値

2（職務；主任、主任以外）×6（領域；養護、健康、人間関係、環境、言葉、表現）の分散分析を行ったところ、職務の主効果、領域の主効果、交互作用のいずれもが有意であった。これまでの分析や図1からも明らかなように、職務の主効果は、主任の方が主任以外よりも平均値が高かったことによるものである。領域の主効果は、養護－人間関係、養護－言葉、健康－言葉の3つの領域の間には有意差がなく、他の領域の組み合わせには有意差がみられた。

交互作用については、次の結果が得られた。まず主任では、環境の領域だけが他の領域よりも有意に低かった。これに対して、主任以外では、環境の領域に加えて、表現の領域も他の領域よりも有意に低く、さらに健康－養護、健康－人間関係、言葉－人間関係の領域の組み合わせの間にも有意差があった。それぞれの領域内で主任と主任以外の差を調べたところ、健康と人間関係の領域では有意差がなく、他の領域では主任の方が主任以外よりも平均値が高かった。

考 察

本研究で得られた主な結果は、次の3つであった。

- ①主任は主任以外の保育士よりも、全体として承認率が高い。
- ②主任と主任以外の保育士の自己評価の差は、領域によって異なり、特に環境と表現の領域は、その差が顕著である。
- ③区分ごとに各項目の承認率を比較すると、各区分で顕著な差がある項目や比較的大きな差がある項目が見られた。

これらの結果から、次のような園内研修が企画できる。まず、月に1回、あるいは2か月に1回の割合で、年間の園内研修計画の中に、常勤の保育士を対象とした「保育の内容の自己評価」の内容を入れる。12の区分があるので、月に1回の場合は毎回1つの区分で、2か月に1回の場合は毎回2つの区分で、1年間の研修が可能になる。

次に各回で研修する区分を決める。例えば、表13は、4月から3月まで、1区分ずつ順に研修を行う場合の決め方の例である。各区分で項目数が異なるので、忙しくて時間が取りにくい月には項目数が少ない区分、少し時間的なゆとりがある月には項目数が多い区分を割り当ててもよい。2か月に1回、毎月2つの区分ずつ研修をしていく場合は、項目数のバランスを考え、一度にあまり多くの項目を実施しない方が望ましい。その方が、1つ1つの項目を丁寧に見ていくことができるので、理解度や遂行度が高くなると考えられるからである。

表13 研修計画の例

月	研修の内容	項目数
4月	ねらい・内容	6
5月	養護	17
6月	教育 1) 健康	13
7月	教育 2) 人間関係	17
8月	教育 3) 環境	16
9月	教育 4) 言葉	19
10月	教育 5) 表現	13
11月	保育の環境	9
12月	乳児保育	22
1月	長時間保育	7
2月	障害のある子どもの保育	11
3月	子どもの人権	7

このような計画を立てた上で、主任と常勤の保育士が研修する区分ごとに自己評価チェックリストの項目に回答する。このとき、それぞれが独立に回答することが、お互いを高め合うのに適当であろう。表13の計画であれば、4月は第1回目なのと、項目数が6と少ないことから、メンバーが研修場所に集まり、その場で回答してもよい。ただしこの場合も、それぞれ独立に回答の方が次のステップで役立つ。

回答が終わったら、全員が自分の回答を公開する。「はい」か「いいえ」の二者択一なので、

人数が多い場合は、あらかじめ誰がどのように回答したかをまとめて一覧表にするとよいが、人数が少ない場合は、研修の場で口々に言い合ってもよい。その後、自分がそのようにつけた根拠を発表し合う。このとき、「いいえ」をつけた保育士の根拠に注目したい。より厳しい基準でつけたと考えられるからである。全員が「はい」や「いいえ」の場合も、それぞれが回答した根拠を述べ合う。その中で、園としてどのような根拠で、それぞれの項目について判断すべきかを決めていく。このような判断根拠のすりあわせが、共通理解を生み、保育所としての活性化につながると期待される。

ここで、このような研修における主任の役割について、言及したい。本研究では、主任の方が承認率が高いという結果を得た。この結果は次の2通りの解釈ができる。その1つは、主任が、より質の高い関わりができている場合である。この場合、主任は他の保育士のモデルとなり、適切な考え方や行動を示すことが期待される。もう1つは、主任の判断が他の保育士よりも甘い場合である。この場合、主任は他の保育士の根拠を尊重し、自らの考え方や行動を改めることが期待される。いずれにせよ主任は、より厳しい基準を示し、その基準で園を導いていくことが望まれる。

最後に、本研究の3つの発展の方向性について述べる。1つは、各園の研修で明示化される判断根拠の共有である。ある園の根拠が他の園でも根拠として適当かどうか問われる。しかしながら、どの園にも共通して適当と考えられる根拠については、自己評価を超えて、第三者評価の規準としての価値も出てくると思われる。

2つめは、研修の細分化である。本研究では常勤の主任と主任以外の保育士を比較したが、常勤の「主任以外の保育士」にも様々な保育士が勤務している。まさに初任者もいれば、主任よりも勤務年数が長い保育士もいるかもしれない。研修を行う人数にもよるが、効果を考えて、最適な集団で研修を実施することが望まれる。

最後は、項目の更新である。本研究の元になった調査は、平成20年7月から8月にかけて実施されたものである。現行の保育指針が平成20年3月に告示されているので、まさに告示直後の調査である。保育士の望ましい考え方や行動は変わらないが、告示後の研修や実践によって、全ての保育士が全ての項目に対して、「はい」と答えられるように変わってきたかもしれない。指針が告示化されたので、最低基準として実践して当然となっているかもしれない。項目に対しては、定期的な見直しが求められる。

謝 辞

本研究のデータを基礎資料として編纂・市販されている「保育士のための自己評価チェックリスト」(民秋, 2009)は、表13に示しているような区切りごとに、「はい」の数、「いいえ」の数、回答に迷った項目とその数を書き込む欄が作られており、この研修に適当であると思われる。このような形で論文化することを認めて下さった民秋言先生(白梅学園大学名誉教授)に記して感謝いたします。

引用文献

- 川喜田昌代・清水益治・民秋言・千葉武夫・佐藤直之・西村重稀 2006 保育者による保育内容の自己評価に関する研究. 白梅学園大学・短期大学紀要, 42, 1-11.
- 水上彰子・吉岡眞知子・西村重樹・成田朋子・千葉武夫・森俊之・川喜多昌代・清水益治 2011 現職保育士による自己評価の就業形態による違い(2)―保育の運営に関する自己評価―. 全国保育士養成協議会第50回研究大会研究発表論文集, 50-51.
- 日本保育協会 2011 主任保育士の実態と在り方に関する調査研究報告書
- 清水益治・千葉武夫 2006 主任保育士による保育サービスの自己評価―初任者、非主任、主任保育士による自己評価の違い― 神戸女子大学文学部紀要, 39, 161-170.
- 清水益治・千葉武夫 2010 保育士による保育内容(環境)の自己評価の分析. 帝塚山大学現代生活学部紀要, 6, 59-66.
- 清水益治・千葉武夫・西村重稀・民秋言・佐藤直之 2006 保育士の資質向上のためのシステム作り―保育士の自己点検・自己評価チェックリストをもとに. 保育士養成研究, 23, 11-20.
- 吉岡眞知子・清水益治・千葉武夫・河野利津子・水上彰子・青井夕貴・西村重稀 2011 現職保育士による自己評価の就業形態による違い(1)―保育の内容に関する自己評価―. 全国保育士養成協議会第50回研究大会研究発表論文集, 48-49.